

とびラジオ～とびラーが語るイサム・ノグチ

(曲入る)

【OP】

みなさん、こんにちは！「とびラジオ」パーソナリティー、とびラーの堀内です。
現在、東京都美術館では、特別展、「イサム・ノグチ 発見の道」を開催しております。
もう御覧になった方はいかがでしたか？イサム・ノグチが様々な素材で表現した作品にどんな
ことを感じましたか？
まだ御覧になっていない方は、この「とびラジオ とびラーが語るイサム・ノグチ」から聞こ
えてくる言葉の数々から、イサム・ノグチの世界をイメージしてみてくださいね！
これからお届けするのは、私たちとびラーが「イサム・ノグチ 発見の道」展の作品をじっく
り、360度四方から見て、お互いに気付いたことや感じたことを言葉にして生まれた、ひと
り語りと夫婦の会話劇のふたつです。展示会のチラシをご用意の上、聴いてくださいね。
抽象彫刻といわれるイサム・ノグチの作品を、自由に楽しんでいただくきっかけになれば嬉し
いです。

(曲入る)

【MC①】

まず1つ目はチラシの作品番号1《坐禅》です。
作品を前にしたひとりの女性が、自分の感じたことや気づいたことを語っていますよ。彼女の
心には、何が浮かんだのでしょうか？
また《坐禅》は、チラシの写真と実際の展示室で、壁の色が違うそうです。どんな色なんでし
ょうね？

【《坐禅》】

女性 「濃いブルーの壁を背にその作品はたたずんでいる。作品タイトルは《坐禅》（ザゼ
ン）。」

「艶（ツヤ）のない銀色の、金属の薄い板の組み合わせ。
上が緩やかなカーブを描く縦長のパーツは、人の上半身のよう。
後ろにはまっすぐな背骨のようなパーツもある。
中央で飛び出たパーツは手かな？
下の方にある横長の楕円形は、まるであぐらを組んだ両足。
そうすると、一番下の四角形は座布団かな？
全体で坐禅を組む人の姿を現しているのね。」

「坐禅ってお寺でおぼうさんがやってるやつだよな。」

ちょっとでも動くときピシって棒で叩かれたりして、私にはなんだか厳しいイメージがある。

この作品は金属でできているから冷たさや鋭さも感じるけど、なんだか柔らかな印象を受ける。

それはどこからくるのだろうか？」

「よくみると縦長のパーツの曲線部が左右対称ではないことに気付く。
フリーハンドで描いたような、人の手の温もりを感じさせる曲線。」

「それに、横長のパーツは少し傾いていてなんだか不安定な感じ。
ひょっとしてこの人、坐禅組み慣れていないのかな？」

「手前に飛び出したパーツは手だと思うけど、そういえば坐禅のときって、両手は組んだ足の上に乗せるよね。

なんだかこの人は『よっ』といって片手をあげているみたい。ん〜どことなくユーモラス。」

「この作品の人の手作業を感じさせる仕上げや、少し不安定なフォルムは、人を寄せ付けない厳しさよりも、親しげに声をかけてきそうな、どこか緩やかで穏やかな感じがする。

まるで『全部に力を入れていなくても、ポイントさえ押さえればいいの。少し力を抜いて』と声をかけてくれているみたい。」

「あ、さっき片手を挙げていたみたいだなと思ったパーツが、奥の縦長のパーツに反射している。

上半身だと思った縦長のパーツの、まだら模様が生み出すもやがかかったような表面に、ぼんやりと手だと思った中央のパーツが映りこんでいる。

まるで坐禅を組んでいる人が思い出していることとか、考えていることが浮かび上がってきているみたい。」

「私が坐禅を組んだら、何が浮かび上がってくるのかなあ。」

【ジングル】

(曲入る)

【MC②】

次はチラシの作品番号3《ヴォイド》です。ある熟年夫婦が作品をみながら、それぞれが抱いた(イダイタ)感想や印象を口にする、会話劇となっています。最後は作品を介して、互いを思う気持ちが交錯したようです。

では聞いてください。

【《ヴォイド》】

妻 「落ち着いた照明の展示室で見ると、同じ角度で見ているのに、チラシのイメージと違うわね。もっと大きいと思ったけど、私の背より小っちゃいわ」

夫 「そうだなあ。それにずいぶん、しっとりと、艶やかに、光っているね」

妻 「おとうさん、ぐるっと、回って見ましょうよ」

(間)

夫 「意外だなあ。ずいぶんと複雑な形だね。まわりを歩きながら、いろんな位置から見ると、太く四角い形が、ねじれて、歪んでいるから、まるで生きているように、どんどん形を変えていくね」

妻 「どこを押しても、絶対に倒されないような、人が、どっしりと座った感じがするのはなぜかしら？」

夫 「ねじれて不規則な形なんだけど、前後にも、左右にも、バランスがとれているんだね。黒くて厚みがあって、重さも感じるし。正面から見た時は、シンプルで静かな印象だったけど、こうしていろんな方向から見ると、命が吹き込まれたような動きを感じて、魅力的な形だなあ」

妻 「お父さん、ほらほら、表面を見て！きれいねえ。つるつるしていて、黒く光っているわ。暗黒の世界に吸い込まれそうな黒ね」

夫 「母さん、黒一色じゃなく、暗黒の中に、よく見ると うっすらと赤い部分がえるね。ほらここ、てっぺんのあたり。わかるかい？」

妻 「うん。見えるわ。なんだか宇宙をのぞいているみたい」

夫 「宇宙？」

妻 「そう、うっすらと赤い部分が、まるで宇宙に広がる赤い星雲みたいだもん」

(間)

夫 「正面に戻ったぞ」

妻 「表面が黒っぽくて、角がない。太くて、丸みを帯びた四角い形に、日本的な美しさも感じてきたわ。余分なものを削ぎ落として、つつましいけど、奥深いもの…『侘び寂び』ね」

夫 「不思議だなあ。同時に力強さや存在感も感じるぞ。達磨のように、どっしりと安定している。歪んだ輪の中心には、パワーが宿っている感じがするなあ」

妻 「あたたかさや、懐かしさも感じるわ。静かに、寄り添って、守ってくれているって。なんか、お父さんみたいね（恥ずかしそうに）。丸みを帯びた大きな姿や、華やかさはないけど 渋みのある味わいがあるし。」

夫 「いやあ、照れるなあ・・・（恥ずかしそうに） かあさん、じゃあ、帰りに母さんの大好きなあんみつでも食べに行こうか」

妻 「あら嬉しい」（うれしそうに）

（曲入る）

【E D】

お聞きいただいた2つのストーリー、いかがだったでしょうか。

2つともチラシでは見えない部分の話もしていましたね。皆さんの頭にはどんな立体が思い浮かびましたか。

本日は最後までお付き合いいただき、本当にありがとうございました。

みなさんも、とびラジオを聞いた感想や実際に美術館へ行って目にした作品について「私はこう見た!」というストーリーなど、ご家族の方やお友達同士で話しをしてみてくださいね。

またこの「とびラーが語るイサムノグチ」は、これ以外にあと2番組ありますので、お時間があるときそちらも聞いてもらえたら幸いです。

「イサム・ノグチ発見の道」展は、東京都美術館で8月29日日曜日まで開催中です。

またいつか、東京都美術館でお目にかかれる日を、とびラー一同心から楽しみにしております!

<了>